

質問件名 将来を見据えたまちづくりについて

【質問要旨】

小平市の総人口は現在は微増していますが、2020年頃をピークに緩やかに減少することが推計されています。2018年度予算編成にあたっての施政方針においても「市政運営においては、人口減少を想定した取組は重要であることは言うまでもありません」とし、人口減少をマイナスのイメージで捉えるのではなく「量」から「質」を重視した取組への転換の好機と捉える、と表明しています。さらに、将来に向けた活力あるまちづくりのためには、さまざまな場面で「参加」と「協働」を進め地域の活力を高めることの重要性を述べています。

3期12年の経験をいかしての4期目小林市政においては、まさに市が言う「参加と協働」の質が問われていると私たちは考えています。長期的視点が求められる具体的な取り組みとしては、公共施設マネジメントがありますが、当選直後の所信表明で市長は「180余りの公共施設の再配置、複合化、統廃合など、厳しい局面が待ち受けている。丁寧に、慎重に、そして計画的にすすめるべき課題。反対の意見も覚悟しながらすすめる。こびず、おもねず、そして諦めず、の精神で粘り強く理解を求める。」と発言しました。

この任期中には（仮称）第四次長期総合計画が策定され、2018年度には調査のための予算が計上され準備に入ります。小平市の一番大きなまちづくりの設計図を描くにあたり、市民参加と協働の力を最大限に発揮することが求められます。市長を12年務めた経験とこだわりをどう見せるか、その本気度を市民は厳しい目で見ています。

私たち生活者ネットワークは、かねてより人口減少社会を見据え、目の前の課題解決はもちろん将来を見通した持続可能なまちづくりの必要性を訴えてきました。50年後100年後を視野に入れ、大きな商業地に近く便利でありながらもみどりが多いという小平の良さをいかしながら、誰もがいきいきとその人らしく暮らすことができるまちづくりをするために以下の質問をします。

- ① 将来を見据えた小平市のまちづくりについてどのようなビジョンをもっていますか。
- ② 小平をどのようなまちにしていくか、予算の優先順位の決定プロセスを含め市民とともに十分に話し合いながら、長期総合計画をはじめとする計画を立てていくという、市民参加のステップアップが必要と考えますが見解を伺います。
- ③ 将来的な人口減少の推計があり住宅が供給過多となるなか、大規模マンションの開発や空き家の問題について、まちづくりの観点からどのように考えますか。
- ④ 人口減少の問題は税収とも関連してきます。ハード面の整備は公共施設マネジメントの観点からも、新しいものをつくるより、現在あるインフラの維持管理や公共交通の整備などによる利便性の確保が大切と考えますが、見解を伺います。
- ⑤ 市のキャッチフレーズプチ田舎を実現するためにも減少し続けるみどりを長期的視点で保全する必要があります。市の中でどのような場所にどのくらいの量のみどりを確保するのかというルールをつくり、みどりのランドデザインを策定する必要があると思いますが、見解を伺います。
- ⑥ 自治会加入率が40%に満たない状況で、地縁だけでない発想でのコミュニティーとの協働の展望について見解を伺います。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

2018年2月14日 小平市議会議長 殿

会派名 生活者ネットワーク

代表質問議員 氏名 さとう 悦子

受付番号【           】—（           ）